

JIS

環境条件の分類－第 2-4 部： 自然環境の条件－日射及び温度

JIS C 60721-2-4 : 2024

(IEC 60721-2-4 : 2018)

(JSA)

令和 6 年 9 月 20 日 改正

認定産業標準作成機関 作成・審議

(日本規格協会 発行)

一般財団法人日本規格協会 電気分野産業標準作成委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	岩本光正	東京工業大学名誉教授
(委員)	加藤有利子	一般財団法人電気安全環境研究所
	下川英男	一般社団法人電気設備学会
	辻勝也	一般社団法人日本電気計測器工業会
	西原敏之	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	馬場旬平	東京大学
	松木隆典	電気事業連合会
	南裕二	東芝エネルギーシステムズ株式会社
	本吉高行	一般社団法人電気学会
	若月壽子	主婦連合会
	綿貫宏樹	一般社団法人日本電機工業会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 11.2.20 改正：令和 6.9.20

担 当 部 署：経済産業省イノベーション・環境局 国際電気標準課

(〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1)

官 報 掲 載 日：令和 6.9.20

認定産業標準作成機関：一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-11-28 三田 Avanti)

審 議 委 員 会：電気分野産業標準作成委員会 (委員長 岩本 光正)

この規格についての意見又は質問は、上記認定産業標準作成機関にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに見直しが行われ速やかに確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 一般事項	1
5 日射の基本事項	2
6 全天日射の値	3
6.1 最大値	3
6.2 平均月間及び年間全天日射	3
6.3 気温及び全天日射が同時に最大値となる場合	4
6.4 1日の全天日射量の世界分布	4
7 夜間における大気放射の最低値	4
附属書 A (参考) 1日の全天日射量の世界分布	6
参考文献	11
解 説	12

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 14 条第 1 項の規定に基づき、認定産業標準作成機関である一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準の案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、JIS C 60721-2-4:1999 は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

環境条件の分類—第 2-4 部： 自然環境の条件—日射及び温度

Classification of environmental conditions—Part 2-4: Environmental conditions appearing in nature—Solar radiation and temperature

序文

この規格は、2018 年に第 2 版として発行された IEC 60721-2-4 を基に、技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本産業規格である。

1 適用範囲

この規格は、日射地域を幾つかのタイプに分類する。製品に適用する日射の厳しさを適切な値に選定する場合に、基礎的な情報として使用することを意図している。

標高 5 000 m 以上の地域を除いて、地理上の地域の全てのタイプを網羅している。

この規格は、また、輸送、保管及び使用中に製品がばく露される可能性のある日射の限定的な厳しさを定義するのに役立つ。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

IEC 60721-2-4:2018, Classification of environmental conditions—Part 2-4: Environmental conditions appearing in nature—Solar radiation and temperature (IDT)

なお、対応の程度を表す記号“IDT”は、ISO/IEC Guide 21-1 に基づき、“一致している”ことを示す。

2 引用規格

この規格には、引用規格はない。

3 用語及び定義

この規格には、定義する用語はない。

4 一般事項

日射によって、製品は、主としてそのものとその周辺環境が熱せられ、かつ、材料の光化学的な劣化に